

様式第 1 0

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
香川県直島町	直島町	平成 2 4 ~ 2 8 年度	平成 2 4 ~ 2 8 年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標		現 状 (平成 22 年度)	目 標 (平成 29 年度) A	実 績 (平成 29 年度) B	実績 / 目標
排出量	事業系 1 事業所当たりの排出量	3.8t	3.8t (0.0%)	4.1t (7.9%)	—
	生活系 総排出量	868t	623t (-28.2%)	997t (14.9%)	-50%
	1 事業所当たりの排出量	263kg/人	197kg/人(-25.1%)	320kg/人(21.7%)	-90%
	合 計 事業系生活系総排出量合計	1,688t	1,442t (-14.6%)	1,731t (2.5%)	-20%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

本町では、循環型社会形成推進地域計画に基づき、一般廃棄物の発生抑制、再生利用等を推進するため、町民、事業者及び行政が適切な分担の下で、それぞれの役割を積極的に果たし、廃棄物の資源化にも取り組んできました。また、中間処理過程においても、資源物の選別や、破碎ごみの金属類の資源化にも努めているところです。

しかしながら、排出量について、直島町循環型社会形成推進地域計画に掲げる目標を達成できませんでした。

その要因として、事業系生活系総排出量については、

- ・瀬戸内国際芸術祭は単年度事業として目標を計画しており、人口減に併せてごみ総排出量も減少する見込みであった。
- ・平成22年度から瀬戸内国際芸術祭が3年毎に開催され、観光客の増加、民宿（30件→60件）・飲食店（34件→44件）の増（民宿、飲食店のごみは、少量であれば生活系ごみステーションに出すことができるため、生活系総排出量の増加の要因の一つとして挙げられる。）
- ・人口減少と高齢化が進み遊休農地が増加するものの、町内の景観を保つため草木伐採等が頻繁に行われている。など

以上が事業系生活系総排出量の増加した主な要因と考えられます。

※なお、平成28年度以前は、直接搬入されたごみを全て事業系ごみとして計上していましたが、施設整備に併せて生活系・事業系の直接搬入の集計方法を見直しました。今回の事後評価は、見直し前の集計方法で算出した数値を実績値としています。

3 目標達成に向けた方策

目標達成見直し平成30年度

循環型社会形成推進地域計画に掲げる目標の達成は、計画からの社会経済情勢も変化し目標達成は難しいと考えられるため、平成30年度に一般廃棄物処理基本計画を見直す予定としています。しかしながら、現在の施策については継続して排出量減少のために努力していきます。中間処理においては、対象物の減量・資源化の強化を図り、適正で効率的な運転管理に努めることとします。

(都道府県知事の所見：改善計画書)

一般廃棄物処理基本計画を見直す際は、現状及び改善計画書の目標達成に向けた方策等を踏まえた新たな目標を設定し、引き続き循環型社会の形成推進に努められたい。